

(別紙2)

令和4年度離島漁業再生支援交付金漁業集落实績報告

令和5年3月1日

1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：沖縄県

市町村名：宮古島市

島名：伊良部島

協定対象漁業集落名：佐良浜漁業集落

協定参加世帯数：143世帯（147人）

（うち漁業世帯数：69世帯（73人））

2. 協定締結の経緯

宮古島市は八重干瀬などに代表される広大な珊瑚礁群に囲まれるとともに、島の南北に黒潮の潮流が流れるなど良好な海域環境を有しており、それらを活用した一本釣漁業、パヤオ漁業、網漁業、潜水器漁業、モズク養殖業等が営まれている。しかしながら、良好な漁場を有している一方、離島という地理的特性に起因する高コスト構造等の条件不利性などから漁業者の減少が進んでおり、この状況を放置すれば本市の漁業集落は一層衰退し、集落及び水産業が持つ多面的機能が低下することも懸念されている。

そのようなことから、漁業集落が行う漁場の生産力の向上や漁業の再生に関する実践的な取組などの活動を通じて漁業の再生を図りつつ、水産業が発揮する多面的機能の維持・増進に向け、佐良浜集落において集落協定を締結し、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

地域の基幹産業である鰹一本釣漁業を支えるのが、その活餌を確保している追込網や敷網などの網漁業であり、そのほか潜水器漁業なども含めた潜水する漁業の作業時においては、大型のサメとの遭遇時、安全のために作業を即時中止して慎重に船へと退避することが危機管理上のセオリーとなっている。その後は漁船にて漁場の移動を余儀なくされてしまい、作業の時間的ロスや心理的な負担等がかかってしまい、サメによる被害は漁獲物の食害だけに留まらないのが現状だ。そのため、サメ類の駆除を長期に亘って実施し、潜水漁業者の負担軽減や安全確保、漁獲物の食害の抑制を図ることとした。

・漁場の管理・改善（サメ駆除）



延縄回収



駆除したサメ

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

地域の基幹産業であるカツオ一本釣漁業に使用する活餌について、餌獲りを行っている追込網漁業経営者や従事者の高齢化等や追込み網漁業の過酷さによって新規就業者の確保が困難なのが現状である。そのため活餌の漁獲が安定せず、餌となる活魚の確保が重要な課題となっている。そこで、新たな漁具・漁法の導入によりカツオ漁の餌自動捕獲装置である「魚類捕獲装置」（ミジュンホイホイ）にて試験操業を行い活餌の確保を図ることとした。本事業年度においては試験操業そのものを行うことは出来なかったが、網の強化や枠の大型化などのアップグレードを行い、次年度以降の取組のための準備を行った。その他の取組として、8月ごとに例年実施していたパヤオの日まつりによる魚食普及活動も予定していたが、新型コロナウイルスの影響を鑑みて中止となった。

- ・新たな漁具・漁法の導入（ミジュンホイホイ導入）



網の張り合わせ



網の全体の調整



本体生簀の陸揚



完成品

4. 取組の成果

交付金交付対象漁業者所得平均 1,245 千円

漁業集落漁業就業者数 73 名

漁場の管理・改善の取組でサメ駆除を実施することにより 41 匹のサメの駆除が完了し、潜水漁業者の負担軽減や安全確保、漁獲物の食害の抑制を図ることができた。また、新たな漁具・漁法の導入の取組では、前年度に中枠を改修した自動餌捕獲器のさらなる耐久度向上のために網の新替えや補強などを行ったほか、課題だった煩雑なバッテリー交換問題の改善策としてソーラーパネルを取り付けるなどの改修を行った。次年度からは、捕獲した餌を移して運搬するための餌籠生簀の製作なども行い、最良の時期に試験操業が行えるよう万全の準備を整えることができた。